

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 三郎丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

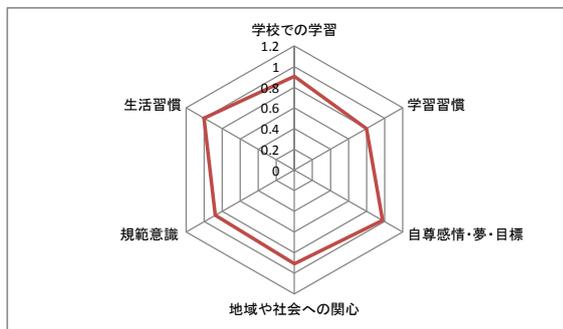
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・「事例を挙げながら筋道を立てて話す」「登場人物の心情について情景描写を基に捉える」問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、活用する問題は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題では、正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・「自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「内容の中心を明確にして詳しく書く」問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、無回答率が高かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・「グラフを読み取る」「数量の関係を理解し、数直線上に表す」問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を求める問題は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・「棒グラフと帯グラフから読み取る」「与えられた情報を解釈し、条件に合うものを求める」問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する問題は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題では、正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・実験結果や与えられた情報から正しいものを選び、より妥当な考えに改善する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を問う問題は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・実験結果から言える内容を記述する問題では無回答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」という児童が全国平均並みか全国平均を上回っている。児童会活動など自主的に取り組む活動をこれからも行っていく。 ・学校の授業以外で、普段の1日当たりの家庭学習が1時間以上の児童が約33%である。これは全国平均約6%を大きく下回っている。「学校の宿題をしている」割合は全国平均を上回っているだけに、宿題以外の自主学習をいかに計画的に取り組むかが課題である。 ・「朝食を毎日食べている」割合が全国平均を約6%下回っている。「早寝・早起き・朝ごはん」をいかに習慣づけるかが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・5校時開始前15分間の「チャレンジタイム」を継続し、全校で一斉に取り組む。
- ・宿題を学年で統一するなど、より習慣化を図り、提出率100%を目指していく。
- ・自主学習ノートの計画的な活用を児童・家庭に伝えていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学年の発達段階を考慮しながら、家庭学習における自主学習への取組を推進する。高学年に関しては中学校の自主学習を紹介したり、校内掲示や学級掲示などで取り組み方のよい児童を紹介したりするなど、意欲の向上と継続を図る。
- ・市全体の課題である「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを懇談会や学校開放週間、PTA行事などで呼びかけていく。